



Tackle Guide
竿はオモリ80号を背負えるヒラメ専用竿やライトゲーム仕掛けは孫バリがダブルフックではなくシングルフック仕様で、イワシもよく泳ぎ弱りにくいところから初めての方はそちらを購入することをおすすめする。

この日は多少南寄りの風があるが、釣りに支障が出るほどでもなく波も比較的穏やか。しかもほどよく潮も流れており朝から釣れそうな気配が漂っている。

これは期待できそうだなと思っていると左舷トモ2番のお客さんにこの日最初のアタリ！アタリから食い込みまでが早かったが無事ハリ掛かり。上がってきたのは40センチ弱のマハタだった。

流し変えて再投入すると今度は左舷ミヨシ2番の橋本和

男さんの竿にアタリ。やや間を取ってから聞き合わせるとハリ掛かり。こちらにもヒラメではなさそう。

上がってきたのは紅くとトゲトゲした魚体。朝方船長が話していたオニカサゴだ。サイズも35センチほどとまずまずの型。鹿島沖でも本場に釣れることに驚いた。

オニカサゴの写真を撮り終えて一息つくとき、左舷トモ3番の方が船中1枚目のヒラメを取り込んだところだった。

サイズは1キロ弱とやや小ぶりだったが、この日最初のヒラメに船長も安堵の表情を浮かべていた。

その後45センチほどのシヨゴ（カンパチの若魚）や何年生きたんだ？と思うくらい巨大なウツカリカサゴといったゲストが顔を出すと午前7時ちょっと前に左舷トモの方によさそうな手応えが。



▲鹿島沖のヒラメは12月以降も期待できる

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス!
これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

今年も残すところひと月。エリアによってはそろそろ深夜から早朝にかけて路面が凍結し始めます。冬用タイヤの準備はお早めに!

茨城県鹿島港発 ↓ 鹿島沖
ゲストも多く食い活発!
鹿島沖のヒラメに期待大

本誌編集部 / 黒澤尚人 Naoto Kurosawa

鹿島沖のヒラメが11月から部分解禁され、解禁以降シケで船が出られない日を除けば数も型も申し分ない釣果が連日続いている。

11月10日、茨城県鹿島港の大久丸へと車を走らせた。

午前3時に港の駐車場に着いたのだが、平日なのにこの時点で駐車場はほぼ満車に近い状況。開幕から好調だからなのか港内が活気に満ちあふれていた。

集合時刻の4時に大川久明船長とおかみさんが到着し、受付が始まったのであいさつする。

船長に状況を聞くと、

「1キロ前後をメインに2キロ前後まで釣れてるよ。数も一人3〜4枚は釣れるから例年並みといったところかな。狙う水深は25メートルから深いところで50メートル。まだ水温も高いから青物なんか

も元気なんだけど、今年も元気がいいけど、今年もヒラメ狙いでオニカサゴもポツポツ交じるんだよ。今まで鹿島沖のヒラメが釣れる水深でオニカサゴは釣れなかったんだけどなあ」と話してくれました。

まだまだ沖釣りの知識が薄っぺらい私でも鹿島沖の、それもヒラメを狙うような水深でオニカサゴが釣れたなんて少しびっくりしてしまふ。

11人のお客さんを乗せた船は午前5時過ぎにまだ空が暗い港を後にし、40分ほど走ってポイントへと向かった。

知得! Tips and Tricks
ヒラメのしゃぶしゃぶ

今回乗船したお客さんに、釣ったヒラメをどうやって食べているかかかったところ、しゃぶしゃぶという声が多かった。2〜3日寝かせた身を薄切りにしてしゃぶしゃぶすると抜群にうまいからお試しあれとのことだ。今度ヒラメを釣ったときにはまっ先に試したい。

▲この時期のヒラメは小ぶりでも肉厚で美味

朝イチはゲストが活発
やってきたのは鹿島沖50メートルダチのポイント。到着するや仲乗りさんからエサのイワシが配られ、ハリ掛けし

上がったのは1.5キロほどのヒラメ。ここからバタバタと釣れてくれるかななんて思っていると思えばどおり、右舷でバタバタと3枚のヒラメが取り込まれ時合がきたかと思われたが、その後はアタリが落ち着いてしまふ。

6キロのヒラメが浮上
午前8時半ごろに船は大きく移動。30分ほど北上し、水深32メートルのツブ根周りを流していく。

それほど大きくない根だというが、魚群探知機を見せてもらうとイワシのようなベイトの反応が見られ、ヒラメがいればすぐにでも釣れそうな感じだ。

流し始めるのとすぐに右舷3番の金井宏次さんの竿が大きく曲がる。

手巻きでゆっくり巻き上げると、2キロクラスの良型のヒラメだった。



枚前後だったことを考えればかなりよい日になったのではないだろうか。

ゲストにはカンパチ、イナダといった青物やウツカリカサゴ、オキメバル、マハタ、オニカサゴといった根魚も多く交じり、土産も十分に非常に内容の濃い一日となった。

大久丸では年明け1月半ばごろまでヒラメ狙いで出船するという。ゲストは徐々に少なくなるが、ヒラメは12月以降も引き続き数、型ともに安定して釣れるはずだ。



▲時合がくるとあちこちで竿が曲がる

ユラリと海面に浮かび上がったのはまさに座布団という表現がふさわしい6キロ近いヒラメだった。

ハリを外して写真撮影が終わると同時に午前11時の沖揚がり時刻を迎え、まさにフィナーレを飾るいい魚となった。釣果はオデコなしで一人3〜8枚。11人が乗船し平均5

船宿information
茨城県鹿島港
大久丸
☎0299-82-4776
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=ヒラメ乗合料金確認
▶備考=予約乗合、4時集合

大川久明船長